

持続的な企業価値向上を目指す 長期ビジョンと中期経営計画

ALSOKは、持続的な企業価値の向上のための4つの重要テーマをベースに「施設・人・財産を守りつつ、人々の安全・安心と快適な暮らしをサポートする企業」を目指していきます。

目指す姿
グループ売上規模

1兆円

利益

1,000億円

ステークホルダーの
期待に応える成長

お客様

地域社会

株主
投資家

ステークホルダー

社員

取引先

中期経営計画

Grand Design 2017

重要テーマ①

社会的課題の解決に貢献 する商品・サービスの提供

少子高齢化や核家族化など、常に変化する社会の動きを的確に捉え、警備業で培ったノウハウを活かし、社会やお客様の課題解決に貢献する多面的なサービスを提供しています。

→ P.25

重要テーマ②

人材育成と働きやすい 職場づくり

社員が能力を最大限に発揮できるよう、研修制度の充実や積極的なキャリア支援、ダイバーシティへの対応など、職場環境の整備に取り組み、企業活動の礎となる人材の育成を目指しています。

→ P.27

重要テーマ③

積極的なコミュニケーション による地域社会への貢献

当社の基本精神である「ありがとうの心」を形にするため、企業市民として、それぞれの地域社会が抱えるさまざまな課題を解決する活動を積極的に展開しています。

→ P.29

重要テーマ④

信頼される 警備サービス

社会からの高い信頼、倫理観や規律性が要求される当社では、コンプライアンスや事業継続への取り組みを最重要課題と捉え、さまざまな取り組みを進めています。

→ P.31

コーポレート・ガバナンス

→ P.35

Stepping forward

中期経営計画 Grand Design 2017

基本方針

グループ売上高の拡大

- 1 営業員の生産性向上による既存事業の拡大
- 2 グループのシナジー効果を最大限発揮することによる売上拡大
- 3 お客様のニーズに応える新商品・サービスの提供

高収益体質への転換

- 1 一人当たりの労働生産性の向上
- 2 グループ「人財」の活用(多機能化)
- 3 グループ全体での管理面を含めたコスト削減

戦略

次の50年へのスタート～ALSOKグループの有機的連携によるさらなる発展～

マーケット別戦略

お客様が抱えるさまざまなリスクやアウトソーシングニーズへの対応

事業法人市場

金融法人市場

公共法人市場

個人市場

海外市場

マーケット別戦略の 推進を支える 取り組み

- ・多様化するリスクやニーズに対応した複合的警備サービスの提供
- ・ファシリティマネジメント業務体制の構築
- ・新商品・サービスの開発
- ・事業領域の拡大
- ・「人財」の安定確保と競争力ある「人財」の育成

CSR 活動による社会的価値の創造

ALSOKグループは、変化する社会のニーズや課題に応えるため、経営理念をベースにCSR活動を進めています。

2014年3月期からは、株主をはじめとするステークホルダーと社会的価値を共有し、その責任を果たしていくために、①社会的課題の解決に貢献する商品・サービスの提供、②人材育成と働きやすい職場づくり、③積極的なコミュニケーションによる地域社会への貢献、④信頼される警備サービスの4つを重要テーマとして設定しています。これからも、持続的な企業価値向上を目指し、それぞれの活動の強化を図っていきます。

OUR STEPS

中期経営計画 Grand Design 2017達成に向けた取り組み

広がるアウトソースニーズへの対応

少子高齢化に伴う人手不足により、民間企業・金融機関がコアビジネスへ注力するとともに公的機関のインフラ・設備監視の民間への委託が増加する流れが定着してきており、従来それぞれが行ってきたさまざまな業務を外部にアウトソースする動きが広がっています。ALSOKグループは全国ネットワークをフル活用するとともに、警備と親和性の高い業界とのコラボレーションも行いながら、マーケット別に、お客様が抱えるさまざまなリスクやアウトソースニーズへの確に対応することで事業の拡大を推進していきます。

経営課題である人手不足に関しては、社員のマルチタスク化やICT、IoT、ロボットなど先端技術を活用して品質の向上と効率化を進めていく方針です。

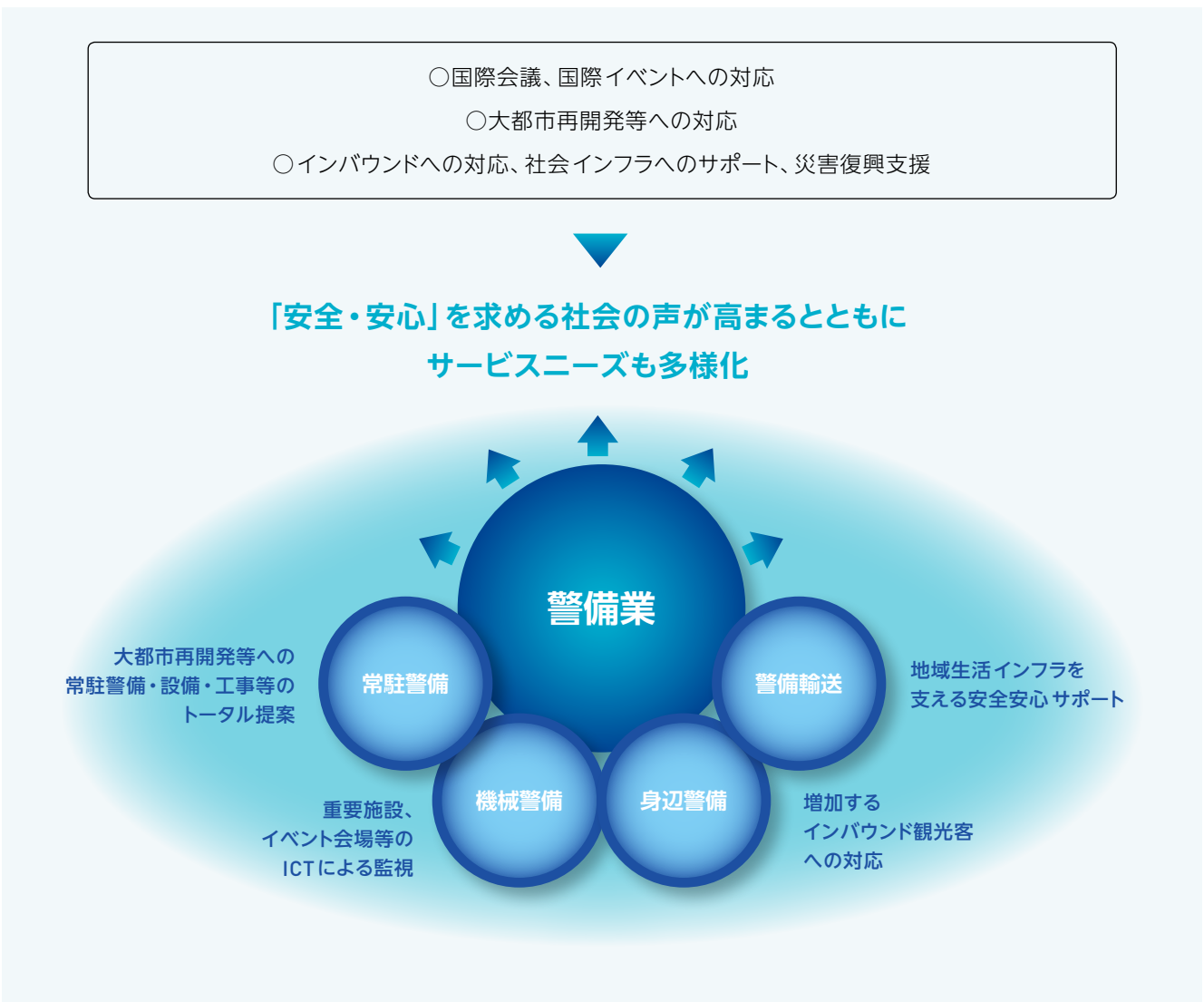
また、ICTの活用や業務の効率化による労働生産性の向上と多機能化によるグループ人材の活用を含めた、グループ全体でのコスト構造改革に取り組み、収益基盤の強化を図っています。現在は、警備員や技術員の多機能化とガードセンターの集約化を進め、コスト削減に努めています。



※1 Public Private Partnership: 官と民がパートナーを組んで事業を行うという、新しい官民協力の形態
※2 Private Finance Initiative: 公共施設等の建設・維持管理・運営等を民間部門の持つ経営ノウハウや資金を活用すること

多様化する警備ニーズへの的確な対応

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会など、この先もグローバルな対応を要する大型臨時警備の需要は増加すると予測されます。同時に、東京2020に備えた競技場の建設など、東京都心の再開発は急ピッチで進み、その勢いは全国の都市再開発にまで波及し、新たな需要を生み出しています。さらに当社は、このような市場のニーズを敏感に読み取り、常駐警備・設備・工事等をトータルに提案するなど、的確に対応していきます。このほか、インバウンド観光客への対応や橋梁点検等の社会インフラサポート、さらには災害発生時の支援など、多様化する警備ニーズに適切に応え、事業の拡大と企業価値向上に努めます。



OUR STEPS

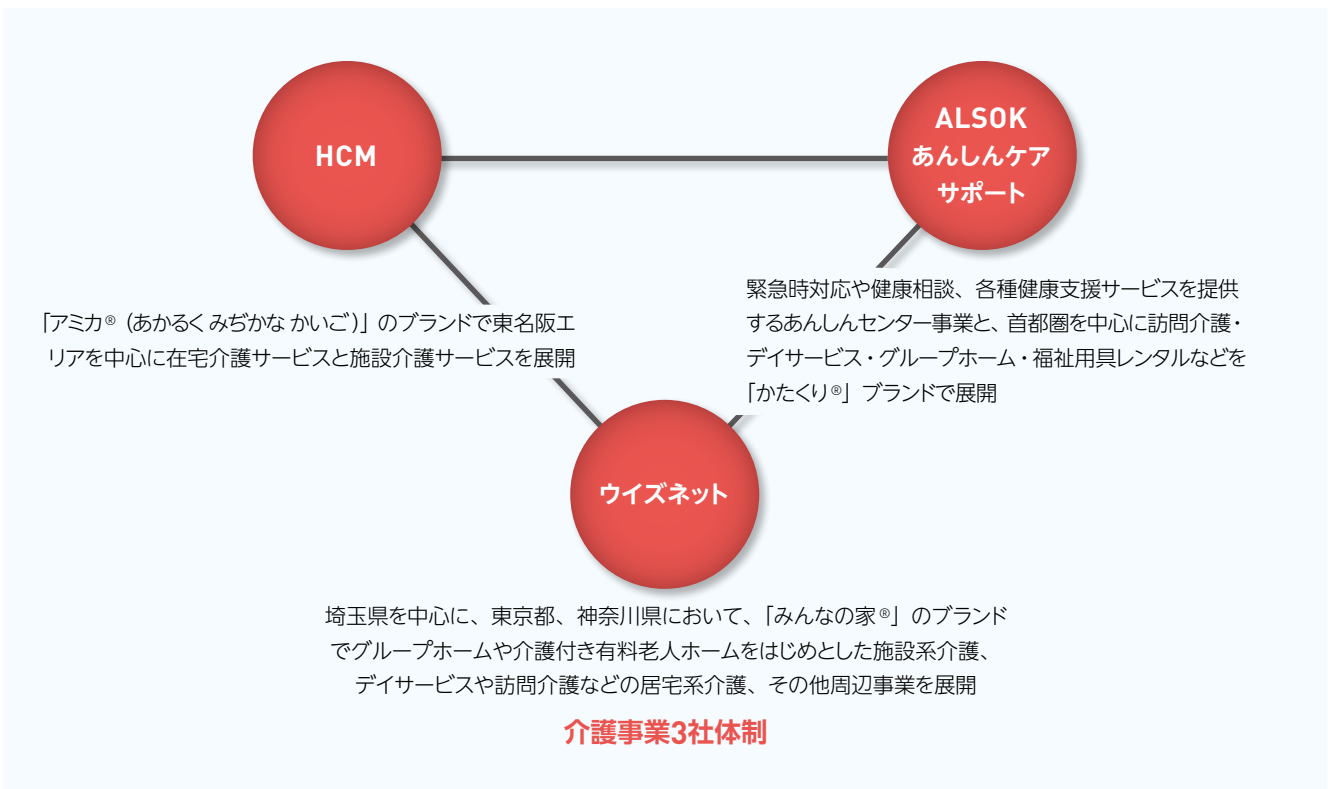
中期経営計画 Grand Design 2017達成に向けた取り組み

介護事業の体制を強化

厚生労働省の推計によると、今後65歳以上の高齢者人口は増加を続け、2025年には全人口の約30%、2055年には全人口の約40%となるが見込まれています。そのため高齢者向けの施設や介護人材は今後大幅に不足することが予想されています。

ALSOKは、こうした社会課題に対応するため、2014年に(株)HCM、2015年にはALSOKあんしんケアサポート(株)をM&Aにより子会社化し、訪問介護・居宅介護支援サービスを中心に提供してきました。さらに、2016年5月にはグループホームや有料老人ホーム等施設系介護を主に行う(株)ウイズネットがグループに加わり、施設・訪問・居宅というトータルな介護サービスが提供可能な体制を整えました。

また、介護事業の営業面での拡充と運用面での品質管理を推進する統括部署として、介護事業部を立ち上げました。社会のニーズに迅速かつ的確にお応えするために、新たな事業の柱として大きく成長させていきます。



HCMの有料老人ホーム「アミカヴィラ稲毛」



ALSOKあんしんケアサポートのデイサービスでの送迎の様子



ウイズネットのデイサービスでの介護風景

高齢者向けサービスの強化

ALSOKグループでは、警備会社ならではの高齢者向けサービスの拡充に努めており、お客様に好評な緊急通報サービス「HOME ALSOKみまもりサポート®」に加え、2015年6月には、携帯電話のGPS機能にALSOK独自の防犯システムを組み合わせたモバイルセキュリティ端末「まもるっく」を発売しました。2016年4月には香川県さぬき市、また2016年8月には福岡県北九州市において「みまもりタグとスマートフォン等との通信を利用した位置情報システム」による、地域みまもりサービスの実証実験を開始するなど、高齢化が進む社会に対応したサービスを拡充しています。

さらに、SOMPOホールディングス株式会社との業務提携を機に同社と共同事業展開の検討を進め、「安心・安全・健康」を訴求する新たなサービスの創出を目指しています。



2020年以降を見据えた新しい警備のあり方

オフィス商業ビルをはじめとした都市空間や大規模イベント会場など、不特定多数の人が集まる環境下では、犯罪や事故発生時の被害拡大防止に加え、予兆を検知することによる未然防止が求められています。これらのニーズに対し、ALSOKは警備員とICTを組み合わせることで実現する「ALSOKゾーンセキュリティマネジメント®」による解決を推進しています。また、最高レベルの認証精度を有する顔認証技術や人工知能(AI)などの先端技術を有するNECとの協業を通じ、具体化を進めています。AI、ビッグデータ、IoT、ロボット等の最先端技術とALSOKが培った人による警備のノウハウを融合し、被害拡大防止に「予兆検知」「未然防止」を加え、警備サービスの役割を新たなステージに変革します。

